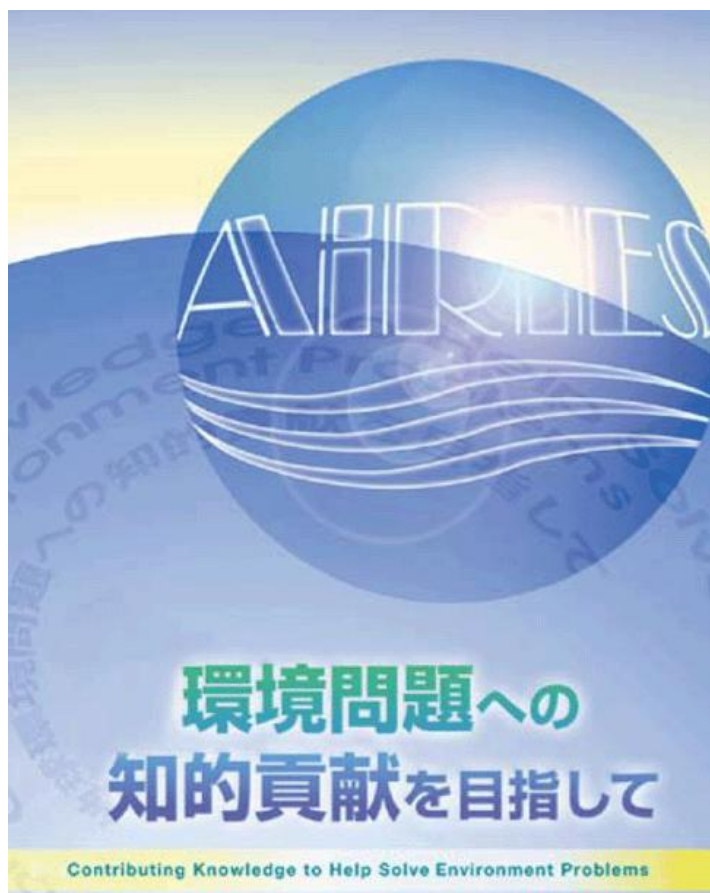


国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

2025年3月 第345号



CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 AIRIES 随筆(148) 「食と旅と環境つれづれ話」(13)
新田 裕史(環境研究総合推進費 プログラムアドバイザー)
- 3 業務報告

協会業務報告

徳田博保(専務理事)

トランプ大統領は就任直後から、関税引き上げや不法移民の強制送還、連邦職員の在宅勤務禁止などを打ち出し、バイデン政権の政策を次々に転換しました。パリ協定からの離脱もその一つです。気候変動の影響が指摘されているロサンゼルス周辺の山火事が続く中での表明でした。

米国のパリ協定離脱が地球環境に与える影響が明確になるには時間がかかるかもしれません。しかし、関税引き上げのインフレ促進への影響については、比較的早く結果が出るでしょう。不法移民の強制送還は労働力不足を引き起こし、国民の不満を高める可能性があります。米国がガザを所有して「中東のリビエラ」に再開する提案や、ウクライナ戦争の停戦に向けてウクライナ抜きでロシアと直接交渉する提案などは、各国の反発を招き、思うようには進んでいないようです。

しばらくは、各国の主要な政治家や経済人を巻き込む「トランプ劇場」が続くでしょう。通常の演劇であれば、その影響はその場の観客の感動にとどまりますが、「トランプ劇場」の場合は、ガザやウクライナの避難民に限らず、将来世代を含む世界の多くの人々に大きな影響を及ぼします。150年以上にわたり世界最大の経済大国として君臨し、多くの人の憧れでもあった米国に、大きな転換期が訪れているように見えます。

米国のパリ協定離脱に対し、かつて気候変動問題に消極的だった中国の外務省報道官は、「気候変動は全人類が直面する共通の課題であり、どの国も無関係ではいけない」と述べ、懸念を示しました。か

つての姿勢とは大きく異なり、隔世の感があります。中国は既に、風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギー分野で他国を圧倒しています。報道官は、「中国が気候変動に積極的に対応する決意と行動は一貫している。中国は各方面とともに、(中略)世界のグリーン・低炭素トランスフォーメーションプロセスを共同で推進していく」と述べました。(人民網日本語版)中国は、既に世界第二位の経済大国、第三位の軍事大国であり、温室効果ガス排出量は世界第一位です。今後は気候変動政策においても主導権を強めていくのでしょうか。

さて、協会の業務ですが、「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」では、令和7年度第一次公募の採択審査が3月に行われます。第二次公募は、ここ数年は5月末から6月初旬に開始されています。環境研究総合推進費関係では、環境再生保全機構により令和7年度採択課題の審査が1月から2月にかけて行われてきており、3月に採択課題が決まります。学術誌については、英文の「Invasion Biology and Control Technologies for Invasive Alien Ants」をまもなくホームページに掲載します

これから年度末が近づき、業務結果報告、精算報告等の各種報告のとりまとめ作業が集中してきます。また、すでに令和7年度業務の入札公告が始まっていますが、上述の事業を含め国際環境研究協会の名にふさわしい事業の獲得に努めてまいります。

引き続き、みなさまのご指導・ご支援のほど、よろしく願いいたします。



「食と旅と環境つれづれ話」(13)

新田 裕史 (環境研究総合推進費 プログラムアドバイザー)

この年末年始の休みにインド旅行に行きました。仕事関係でインドネシアと中国に行ったことはあるものの、観光目的でアジア圏を訪れたのはほぼ初めてです。インドは一度訪れるとハマってしまう人ともう二度と行かないという人にはっきり分かれてしまうという話をよく耳にします。前者のハマる理由はいろいろあるかも知れませんが、後者の理由はゴミ・糞尿による悪臭や不衛生な環境にあることは共通していると思います。友人がインドのシリコンバレーと呼ばれているベンガルール(旧称バンガロール)に仕事で行ったときの話を聞いたことがありますが、世界的に有名なIT企業がある一角を少し離れると“カオス”の状態になっていて、インドに行くときには防水の靴でないとトイレで大変なことになると忠告されました。現地ガイドからは、とにかく飲み水に気をつけることを強く言われました。例えば、ホテルやレストランでテーブルにおいてあるボトルの水を飲んでもお腹を壊す場合があるので、必ず自分(ガイド)に聞いて確かめてから飲むようにしてくださいとか、歯ブラシした後のうがいの水も保証付きのミネラルウォーターを使うことなどです。

今回の旅行は旅行会社が企画したムンバイ(旧称ボンベイ)とオーランガバード(ムンバイから東約 350kmのデカン高原にある町)を起点としてインドの三大石窟といわれるエレファンタ石窟群、アジャンタ石窟群、エローラ石窟群を中心に巡る団体ツアーです。団体ツアーでは個人的なことは尋ねないことがマナーということなので、挨拶がわりの言葉は「インドは初めてですか」というのが無難です。30人ほどのツアー参加者の全員に尋ねたわけではありませんが、妻と私以外に初めてという人はいませんでした。大抵の人は複数回インド旅行をしていて、初めてのインド旅行はデリーを中心としてタージマハールなどを巡る北インドツアーが定番だということを知りました。

最初に訪れた石窟は、ムンバイの沖合 5km ほどのところにあるエレファンタ島の石窟群です。フェリーで 1 時間ほどのところにあり、船を降りてから遊園地の電車の

ようなトレインに数分乗って石窟の入り口に到着です。そこから石窟までは土産物屋が建ち並び、客引きの声が絶え間なく続きます。ここはヒンズー教の石窟寺院遺跡で、シヴァ神の像が有名です(写真 1)。

次に訪れたのはアジャンタ石窟群です。ここは紀元前 2 世紀～紀元 2 世紀と紀元 5～7 世紀頃にかけて造られた 30 の石窟がある古代の仏教の遺跡です。この石窟には、石像だけではなく、法隆寺の壁画に似ている壁画もあります(写真 2)。ツアーでは一部の有名な石窟を巡るだけですが、それでも歩き疲れてしまいました。その日の夕食で一緒になった定年退職したばかりとい



写真 1:シヴァ神の三面上半身像



写真 2:アジャンタ第 1 石窟の壁画

うツアー参加者は、今日は全部の石窟をみられなかったので、別の機会にまた来たいといっていました(元気な人でないとインドは無理か?)。

アジャンタの次はエローラ石窟群です(写真 3)。ここは造られた時代は異なるものの、ヒンズー教、仏教、ジャイナ教の石窟が同居しており、三大石窟の中では一番規模が大きいように感じました。その中でもヒンズー教



写真 3:エローラ石窟群 第 16 窟

の石窟が最も大規模です。

ツアーの現地ガイドは日本の仏教系大学の大学院で宗教学を学んだという人で、訪れた石窟寺院での説明は非常に詳しく、帰国する頃にはジャイナ教、ヒンズー教、仏教の歴史に詳しくなりました。ただし、宗教史は奥深く、仏教に限っても全体を理解するには教養がまったく足りません。

実は、私がムンバイに行く決めて最初に思い浮かんだのは、さまざまな世界遺産などではなく、以前にネット配信で観た Dabba (邦題「めぐり逢わせのお弁当」) というインド映画です(出発前にまた観てみようと思いましたが、残念ながら配信停止になっていました)。この映画のベースになっているのは原題にもあるダッバーワラーという配達人が自宅で家族が調理したお昼の弁当をオフィスまで直接届け、また空の弁当箱を回収して自宅に戻すという古くからムンバイにある仕組みにあります。自宅とオフィスが離れている場合、何千人もいるという配達人がすべて手作業で何十個という弁当を一旦集積場に集めてから配達を行うという仕組みになっている

にも関わらず、誤配達が起こらないことが特徴になっているそうです。弁当箱の蓋に書かれている記号で管理されていて、インドの IT 技術は使われていないらしいです。映画では滅多にないはずの配達先の取り違いがきっかけで起きる見知ら



写真 4:インドの弁当箱

ぬ男女のやりとりがテーマになっています。私が映画で興味を持ったのはその弁当箱です。

写真はステンレス性の丸い三段重のような作りのもので、実際にインドで買ってきたものです(写真 4)。オーランガバードでバザール見学がツアーに組み込まれていて、インド土産を買うために食料品スーパーに立ち寄った際に、店の隅の棚においてありました。日本国内の通販サイトでは結構な値段だったので購入を躊躇していたのですが、現地では 700 円ほどの値段でした。映画では四段重か五段重だったように思いますが、私は小ぶりの三段重を買いました。ただし、カレーなど汁物を入れた時にしみ出る可能性がありそうなことと、そのまま電子レンジにかけられないので、実用には至っていません。ムンバイ滞在中はちょうど休日だったためか、もしくは前首相死去に伴う服喪期間と重なったためか、残念ながら実際にダッバーワラーを見かけることはなかったのですが、いろいろ調べると、ダッバーワラーの皆さんが一度に何十個という数の容器を板の上に載せて担いだり、リヤカーや荷車に載せて運んだりしている写真が見つかります。おそらく、できるだけ傾けないようにして、喧噪と雑踏の中を運んでいると想像します。

ムンバイはとにかく人と自動車が多かったのですが、近代的な町並みで、インドが嫌いになる最大の理由といわれるゴミや牛の排泄物を町中で見かけるということはありませんでした。一方で、大気汚染の研究をしてきた者としてはやはり空気の汚れは気になります。晴天





写真 5:ムンバイの湾岸道路から湾越しに見た市街地

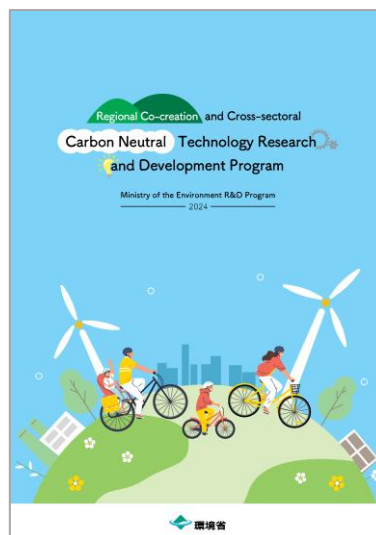
にもかかわらず、白く霞んだ様子は典型的な硫黄酸化物による大気汚染と推測できました(写真 5)。一昨年経験したカナダの森林火災による大気汚染(ニューズレター340号参照)と比べるとPM2.5濃度は同じようなレベルですが、まったく異なる様相を示していました。日本の平均濃度の数十倍に達していても、カナダの時

と同様にツアー参加者がそのことを気にしている様子はまったくありませんでした。

初めてインドを旅行して、もう二度と行きたくないという気持ちにはなりませんでしたが、一方でインドにハマってしまったという感じでもありませんでした。ムンバイの町や世界遺産の観光地でたくさん見かけた遠足か修学旅行だと思われるそろいの服を着た子供たちの眼は輝いていて、インドの活力を感じましたが、ガイドさんの説明によると日本の義務教育年齢に相当する子供の未就学率は数十パーセントもあるということでした。ただ、帰国してからいろいろと調べてみると、異なる資料もありました。就学率や識字率の統計データがどの程度信頼できるか不明です。いずれにしても、数日間の旅行でインドのことを単純に理解することはできないという思いを強く持ちました。

「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」

2024年度パンフレットのご紹介



「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」のパンフレット(2024年度版)が完成しました。

下記、ホームページにてご覧いただけます(いずれも環境省のサイト)。

- 地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業 HP
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/cpttv_funds/index.html
- 2024年度パンフレット
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/cpttv_funds/pamphlet/

業務日誌



(2025年2月)

- 2/3(月):推進費制度 新規採択ヒアリング(S-24)を傍聴(Web会議)
CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(Web会議)
- 4(火):推進費制度 環境省打合せ(協会)
CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(Web会議)
- 5(水):CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(Web会議)
CO2 対策事業 検討会に出席(Web会議)
- 5(水),6(木):推進費制度 新規採択ヒアリング(自然共生)を傍聴(Web会議)
- 6(木):CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(Web会議)
CO2 対策事業 検討会に出席(京橋/Web会議)
CO2 対策事業 検討会及び実証検分に出席(瑞浪/Web会議)
- 7(金):推進費制度 環境省打合せ(Web会議)
推進費制度 新規採択ヒアリング(気候変動)を傍聴(Web会議)
CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(Web会議)
CO2 対策事業 キックオフ会合及び検討会に出席(名古屋)
- 10(月):推進費制度 新規採択ヒアリング(気候変動)を傍聴(Web会議)
推進費制度 追跡評価専門部会事前打合せ(Web会議)
CO2 対策事業 検討会、実証検分及びキックオフ会合に出席(東松山/Web会議)
- 12(水):CO2 対策事業 検討会(大津/Web会議)
CO2 対策事業 環境省打合せ(Web会議)
- 13(木):CO2 対策事業 一次公募打合せ(協会)
- 13(木),14(金):推進費制度 新規採択ヒアリング(統合)を傍聴(Web会議)
- 14(金):CO2 対策事業 一次公募打合せ(環境省)
- 17(月):推進費制度 第3回追跡評価専門部会を開催(AP 東京丸の内/Web会議)
- 18(火):CO2 対策事業 検討会に出席(Web会議)
- 19(水):推進費制度 環境省打合せ(協会)
CO2 対策事業 検討会に出席(新川/Web会議)
- 21(金):CO2 対策事業 検討会に出席(Web会議)
- 25(火):推進費制度 環境省打合せ(Web会議)
CO2 対策事業 応募相談会を開催(Web会議)
CO2 対策事業 検討会に出席(Web会議)
- 26(水):推進費制度 企画委員会事前打合せ(Web会議)
CO2 対策事業 検討会及びキックオフ会合に出席(Web会議)
- *推進費制度:環境研究総合推進費制度運営・評価検討業務
CO2 対策事業:地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL:03-5812-2105

FAX:03-5812-2106

E-mail:airies@airies.or.jp

Homepage:https://www.airies.or.jp

